

第2回豊川市総合計画審議会等での意見と対応状況について

参考資料 1

No.	基本計画改訂版（初案）		意見・質疑等の要旨	対応状況
	頁	内容		
1	2	総人口の目標	グラフの中に、「平成20年12月183,259人」という表示がある。現計画に対するピークの値が残してあると思うが、このグラフは平成27年からスタートしているので、削除してよいのではないかと。また、合計特殊出生率について、目標値は記載されているが現状値が記載されていないので、記載すべきではないか。	ご意見のとおり、総人口の目標のグラフ表記を修正しました。
2	9	まちの構造	今までの拠点を明確にする中心市街地の活性化の動きは、地方だとほとんど成り立っていない。拠点を置く発想そのものを覆した方がよいのではないかと。今までのコンパクトシティのように、駅前で歩くという発想よりも、地域全体を車で移動するというまちづくりに移行してきているのが実際で、拠点という考え方に無理があるのではないかと。もっと連携や広がりなど、拠点以外のところを含めた利便性を上げて、結果的にはその拠点到賑わいをもたらせるような方向性に変ってきているのではないかと。思い切って都市交通そのものの転換も始まってきていることを意識してはどうか。	まちの構造に関する基本的な考え方を見直しは、基本構想の土地利用構想にも影響するため、今回の中間改訂での修正は困難ですが、ご意見は参考とさせていただきます。
3	9	まちの構造	まちの構造図の中でも、まちなか居住と暮らしのゾーンを一体化しており、点から面の発想みたいな考えは必要かもしれない。また、この地域は他の地域と違って駅が非常に多くあるので、駅を活かしたまちづくりで、点をネットワーク化して面にしやすいという意味では新たな取組ができるのではないかと。何らかの新しい発想を含めて検討していただきたい。	ネットワーク化については、策定時から拠点と軸による連携イメージを意識し、あわせて、立地適正化計画に基づき、まちなか居住ゾーンとくらしのゾーンを統合などの対応をしています。
4	9	まちの構造	まちの構造図の中で、地域拠点はおおむね駅を中心とした設定がされているが、一宮地区など、主要な施設を中心に設定すべきではないか。	基本構想の土地利用構想にて、「主要な鉄道駅周辺の市街地を拠点」としていることから、基本的に鉄道駅を中心として設定しています。
5	11	めざすまちの構造	「めざすまちの構造」における「集約により期待するもの」では、「まちの利便性や地域コミュニティ、にぎわいを持続的に確保することが可能になります」とあるが、「地域コミュニティ」というのは何を指すのか。集約により期待するものが地域コミュニティなのか。SDGsの観点や、安全安心に仕事ができる、自分で選ぶことができる、リパブルシティ構想というのを、もうそろそろ入れてもいいのではないかと。この「地域コミュニティ」という言葉が浮いていると感じたので再度検討いただきたい。	「集約により期待するもの」を以下のとおり修正しました。 中心拠点や地域拠点には、これまでに整備された公共施設などの行政機能や、商業施設、医療・福祉施設などの生活機能などが集積しています。これらを活用し、都市機能を集約させるとともに、多様な交流づくりを推進することで、まちの利便性を高め、にぎわいが持続的に確保され、暮らしやすいまちの実現が可能となります。
6	11	めざすまちの構造	「めざすまちの構造」における「集約により期待するもの」を読んだ際、新たな商業施設というイメージを、イオンにそのようなコミュニティ機能を持たせるようなところまで踏み込んで考えられているのかという印象があった。	No.5の対応状況のとおり
7	11	めざすまちの構造	集約をすれば地域コミュニティが活性化するのかわからないかと必ずしもそうではないと思うので、「集約により期待するもの」の中の「地域コミュニティ」という表現の再検討には賛同する。	No.5の対応状況のとおり
8	11	めざすまちの構造	立地適正化計画の施策は今後、50年ぐらいのスパンで続いていくものであり、人口が将来的にはどんどん細っていき、基盤の維持すらも危うくなる中で、それを見据えて都市構造をどうするのかという視点で見ることが必要がある。諏訪地区は拠点となっているが、一例として車で移動するのが便利なか中で、多少でも歩いて楽しめるような環境があれば、それが市の魅力となる。一宮地区のまちづくりでも、拠点は歴史的なアイデンティティなどと密接に繋がっているので、そういったものをいかに保全してつづいていくのかという感覚が実は非常に大事だと思う。今後どのように維持するか、または、少しでも大切に育てていくのか、という視点がないと厳しいのではないかとという印象を今日の議論を聞いて思った。	—
9	11	めざすまちの構造	この5年の間に、八幡地区が拠点として加わり、集積から分散が進み、また、宝飯郡4町合併したこともあり、集約としてのまちづくりが進んでいる状況ではない。その中でも、姫街道も含めた中心市街地の範囲の見直しも行っていないのは、実態と離れ、むしろ市全体のネットワーク型のまちづくりを進めるためのブレーキにもなっているのではないかと。門前を中心とした豊川駅前のみを中心市街地指定を範囲として、変更するべき。	中心拠点をはじめ、まちの構造に関する基本的な考え方を見直しは、基本構想の土地利用構想にも影響するため、今回の中間改訂での修正は困難ですが、ご意見は参考とさせていただきます。
10	16	満足度と重要度の点数化と分析	このグラフは市民アンケートに基づいて作成されたものだが、逆に、行政の立場から見た重要度や緊急度の高い事業を整理し、両者の乖離をどのように埋めるかを検討することもまちづくりのためには有効だと思う。	いただいた意見を参考として、市民・行政それぞれの立場からみた重要度等の適切な比較方法などを検証します。
11	17	第4章の構成	第1章から3章がどちらかというと市の中の変化を捉えており、市の外からの変化を「SDGs」や「新たな日常」といった形で整理されていると感じました。よって、市の外を捉える章を第4章とし、「基本計画推進のために」が第5章の方が見やすいかなと思います。特にSDGsと書かれているので、外枠にはDX改革などを横文字で入れてもらえれば斬新になる。	ご指摘を踏まえて、第4章の構成を修正しました。
12	18	定住促進や交流促進（まち・ひと・しごと創生総合戦略）に寄与する施策	整理表中の交流促進に関する施策について、政策1と2がほとんどないという部分と、24ページの新しい未来構想における3つの視点に対して、政策1は「新たな暮らしのスタイルの確立」と「新たな付加価値を生み出す消費・投資の促進」について該当がない。少なくとも1つか2つは各政策の中でこれに取り組む、という新たな施策みたいなものがあつたらいい。	新たな日常に向けた強靱な地域の構築に寄与する施策として、政策1施策5環境保全と生活衛生の向上を「新たな暮らしのスタイルの確立」と「新たな付加価値を生み出す消費・投資の促進」に位置づけました。
13	21	SDGsの17のゴールと基本計画における各施策の関係	SDGsのゴールと各施策がどのように関係しているのかが分かりやすいが、既にある施策をただ割り付けるだけでなく、SDGsのゴールに照らすと、施策のバランス的にどこが弱いのか、ということに対する考察があるとよい。特に、SDGsの目標「7エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に対応する施策が「環境保全と生活衛生の向上」となっているが、その内容を見ると、あまり「エネルギーをクリーンに」ということと関係がない。この7番が施策の中で弱いと思うので補強した方がよい。施策として何があるかは把握していないが、例えば環境格付けのようなものに対して、市内の頑張っている企業を補助するとか、単にソーラーパネルを増やすとか、そういう話ではなくて、色々ソフト面も含めてやれることはあるのではないかと。その他のゴールについては、施策の数が少ないものであっても、目標に対して実質的な内容にヒットしていることが多いとおおむね対応しているとみられる。	環境基本計画を踏まえて、政策1施策5環境保全と生活衛生の向上の主な手段と事業例の一部を以下のとおり修正しました。 ①地球温暖化対策の推進 <環境課> ・省エネルギー型ライフスタイル、事業活動の推進 ・再生可能エネルギー（*1）、新エネルギー（*2）の普及啓発と導入支援 ・事業者と連携した家庭の省エネ行動勉強会の開催 ・緑のカーテン（*3）の普及啓発 ・公共施設における率先的な再生可能エネルギーの導入 <都市計画課> ・パークアンドライドの推進
14	21	SDGsの17のゴールと基本計画における各施策の関係	SDGsのゴールは理想的なものであるため、計画の中でこの目標は達成できることと逆に政策が多くてもなかなか達成できないこと、この施策を実行することでどれぐらいその目標ができるのか、といったことを可視化できるとよい。	個別の目標の可視化は難しいため、施策がどの目標に寄与するのかという位置づけで整理します。
15	21	SDGsの17のゴールと基本計画における各施策の関係	169のターゲットについて、他の機関と連携するものや他の機関で決定力のあるものなど、様々な部分で具体的に自治体が独自で取り組むことが少ないということだが、自治体独自ではできないものの、この分野のNPOなどの団体を援助していくとか、具体的にできることは協力するといった表現を記載できると幅が広がると思う。	新たな課題への対応や、SDGsに関連する事業例等の記載の中で、記載内容等について配慮します。

第2回豊川市総合計画審議会等での意見と対応状況について

参考資料 1

No.	基本計画改訂版（初案）		意見・質疑等の要旨	対応状況
	頁	内容		
16	21	SDGsの17のゴールと基本計画における各施策の関係	市民などに普及啓発を図るとあるが、市民活動とか市民の生活の中で、どうSDGsに取り組むか、ということまで落とし込まないといけない。啓蒙と一緒に具体的な行動を示すことが、より一層、SDGsの裾野を広げることになる。	No. 15の対応状況のとおり
17	21	SDGsの17のゴールと基本計画における各施策の関係	豊川市としてSDGsにどう向き合うかを総合計画で説明すべき。私は、SDGsはあくまでも、豊川市の政策を実現する有効な手段として利用するのがよいと思っており、SDGsの切り口で整理することは、補助金を獲得するための準備になるとしている。	新たな課題への対応のSDGsに関連する記載の中で、記載内容等について配慮します。
18	23	新たな日常に向けた強靱な地域の構築に寄与する施策	経済財政運営と改革の基本方針2020において、地方経済の活性化などに大きく踏み込み、一極集中からの転換やデジタル社会の思い切った推進がある中で、その方針を受けて、総合計画における評価や修正、推進の方向性がもう少し具体的に見えた方がよい。特に、「デジタル」ということが先程から言われていたので、この地域をデジタルコミュニケーションとしても推進させる、というような方向もあり、大変素晴らしいことであるので、もう少し踏み込んで記載したらどうか。	新たな課題への対応として、新たな日常の構築への原動力となるDX（デジタルトランスフォーメーション）に関する記載を追加しました。
19	23	新たな日常に向けた強靱な地域の構築に寄与する施策	デジタル関係について、多くが「ICT技術の導入」と一言書いてあるだけで、具体的な記述がない。デジタル庁の設置などに対してどう動いていくかという具体策が見えない。どこの自治体よりもタイミングよく改訂するため、もう一歩進んで、デジタルや一極集中を左右する計画、政策などを取り入れて、そこをアピールできる計画としていただきたい。	できるだけ具体的な記述に修正するとともに、新たな課題へ対応として、新たな日常の構築への原動力となるDX（デジタルトランスフォーメーション）に関する記載を追加しました。
20	23	新たな日常に向けた強靱な地域の構築に寄与する施策	図表に「コロナに強い」とあるが、他の部分は「新たな暮らし」あるいは「新たな付加価値」という普遍的な言葉が使われている。コロナはもしかすると、ワクチンができればすぐ収束してしまうかも知れないので、5年後を考えた時に、ここにコロナという言葉を入れるのはどうか。（その後、コロナという言葉の代わりに、感染症という言葉にしたらどうかとの意見あり。）	社会環境整備の対象は、感染症だけでなく災害等の危機管理も含まれるため、「コロナに強い社会的な環境整備」を「社会的な環境整備」に修正しました。
21	29	政策1施策1 交通安全対策の強化	障害者団体として、歩道一つにしても車いすが通れるような広い道が非常に少ない。道路と歩道の間にある段差の3センチが、命に関わる人がいるということを知ってほしい。そういう人も安心して生活できるまちづくりをお願いしたい。交通安全は高齢者にも特に重要な問題だと思しますので、色々と検討してほしい。	ご意見は関係部局と共有し、今後の取組の参考とさせていただきます。
22	29	政策1施策1 交通安全対策の強化	昨年、自宅の目の前で大きな交通事故が2件発生した。しかし、歩道は未だ設置されていない状況。計画の目的として、交通事故の死傷者を少なくすることが本来の目標であるならば、過去に事故が発生した場所からしっかりと整備するべきではないかと考える。	ご意見は関係部局と共有し、今後の取組の参考とさせていただきます。
23	34	政策1施策3 防災対策の推進	新しい事業例として「先進技術を活用した情報収集の強化」とあるが、防災センターは既にできており、まだ他に情報収集の強化ができるのかと感じた。	ドローンをはじめとしたエアモビリティなどの新技術の活用により強化を図っていきたく考えています。
24	34	政策1施策3 防災対策の推進	災害を考える際、「自分は大丈夫」「自分は災害に遭わない」という正常性のバイアスが常に働いているので、なかなか意識を変えることは難しい。ただ、災害は必ず起きるということを念頭に置いて、PR等を積極的に行ってほしい。	新たに設置した防災センターを有効活用し、防災知識の普及啓発やPRを積極的に行います。
25	49	政策2施策3 子育て支援の推進	子育て支援に対して、保育園・子育て支援課・保育課・保健センター等、様々な機関と連携することが重要であると考え。そのため、子育て中の親の不安を取り除くため、相談窓口を広く設けていただきたい。	本市では、子育てに関する相談窓口として、子育て支援課、子育て支援センターを始め、保育課、保健センター等において相談を受け付けるとともに、利用者支援事業での訪問相談や保育所での個別相談など幅広い相談事業を行っています。また、子育て支援センターを中心とした定期的な情報交換のための会議を行い、各相談窓口の連携を図っています。
26	50	政策2施策3 子育て支援の推進	関係する計画等の中に「豊川市障害児福祉計画」とあるが、行政によっては「子ども子育て支援事業計画」の中でしっかりと「障害児福祉計画」を盛り込んでいるところもある。これを分ける理由は何か。もし分けなければ、豊川市で運営できないというのであれば、必ず整合性を持っていただきたいという声も常々聞いている。	障害児福祉計画は、児童福祉法に規定された成果目標や障害児福祉サービス等の必要な見込量を表す計画であり、計画内容の重複する部分が多い障害福祉計画と一体的に策定しています。そのため、子ども子育て計画支援事業計画とは別に策定する形となりますが、関連する施策については、整合性が図られるよう推進していきます。
27	50	政策2施策3 子育て支援の推進	子育てを前向きに捉える親の割合が年々低くなっている。満足度は増えているが、まだまだ低い現状。保護者がどうしたら安心して子どもを産み、育てやすいと感じるかということに視点を置いてみると、子育ての資金や発達相談の場、そして、近くで安心して子どもを遊ばせることができる場等の環境の充実が大切だと感じる。「子育てするなら豊川市」というスローガンのもと、環境を整え、サービス等わかりやすく市民の皆様へ周知していただくよう対策を考えていくことも必要。	現在、第2期子ども・子育て支援事業計画に基づき、子ども・子育て支援サービスの充実を計画的に推進し、環境整備を図っています。周知については、広報紙やホームページ、安心メールなどの媒体を通じた広報を始め、出生届提出時に配布するガイドブックなどを通じて、より分かりやすい周知に努めます。
28	52	政策2施策4 高齢者福祉の推進	主な手段と事例に「とよかわオープンカレッジへの支援」とある。確かにオープンカレッジでは50～70代が年代として最も多いため、オープンカレッジへの支援を記載したと思われるが、オープンカレッジそのものの在り方についても検討いただきたい。高齢者の事業として整理することについては、やや疑問が残る。	「とよかわオープンカレッジへの支援」の実施主体は政策4施策3生涯学習の推進であるため、P70への掲載を主として、政策2施策4高齢者福祉の推進については再掲としております。オープンカレッジの在り方の検討については生涯学習課で実施していきます。
29	52	政策2施策4 高齢者福祉の推進	家族に若い方が一人でもいれば、ネット等を利用して情報を共有することが可能だが、それらを使えない年代の方は実際にいる。そのような方々は、自分の要望を発信する手段を知らないため、緊急時の支援などどのように市に伝わるか疑問に思う。	一人暮らし高齢者との関わりが多い民生委員や高齢者相談センター等を通じて、市への要望や相談する体制の周知に努めていきます。
30	52	政策2施策4 高齢者福祉の推進の 主な手段と事業例	高齢者が自立して生きがいのある生活を送るためには、様々な施策が必要とは思いますが、一番重視しているのは、高齢者の移動手段。「生きがいがある環境の提供」に、「高齢者の移動支援対策の実施」とある。地域公共交通会議の中で、コミュニティバスのフリー乗降などについて、たくさん提案しているが、高齢者の交通事故をなくすためにも、実際に具体的にできる方法を、出していけないといけない。もう少し具体的に、誰が見ても分かるような文言を入れることはできないか。	高齢者の移動手段は高齢者が自立して生きがいのある生活を送るためには不可欠であり、多様な移動手段について、関係部局と連携して検討を進めます。
31	58	政策3施策1 住環境の整備	関連する計画等の中に「豊川市空家等対策計画」が記載されている。空き家対策を市民協働の分野で評価したとき、何年経過しても調査・検討ともにゼロの報告となっていた。したがって、計画に記載するからには、きちんと実行していただきたい。	政策3施策1住環境の整備の中に、「空家対策の推進」を位置づけ、適切に実行していきます。
32	58	政策3施策1 住環境の整備の目標 指標	目標指標に新たに特定の区画整理の進捗状況が指標として入っているが、他の目標指標は市全体で見た時、今までのものを含めた達成度を評価しているのに対し、これは単体の事業だけを入れているので違和感がある。これを見ても、本当に基盤整備という面で、住みやすさのレベルが上がったのかどうかというのは判断できない可能性が高い。	ご意見を踏まえ、政策3施策1住環境の整備の目標指標について、特定の区画整理の進捗状況から、区画整理全体を捉え、「土地区画整理事業地区内の宅地整備面積」に変更しました。
33	61	政策3施策3 道路交通網の充実 政策3施策4 緑や憩いの空間の充実	住み心地よい、訪れやすい都市環境の整備で緑や憩いの空間の充実、とある中、電線電柱の埋設や景観整備の事業がかけられていることが、今の時代に遅れていると考える。防災の観点からも電柱の埋設事業の推進や検討を入れるべきではないか。（P61～64）	電線電柱の埋設や景観整備は重要な事業の一つとして認識しており、景観整備の推進は政策3施策1住環境の整備に、無電柱化の促進は政策3施策2コンパクトシティの推進に、それぞれ主な手段と事業例として位置付けています。

第2回豊川市総合計画審議会等での意見と対応状況について

参考資料 1

No.	基本計画改訂版（初案）		意見・質疑等の要旨	対応状況
	頁	内容		
34	66	政策4施策1 学校教育の推進の目標指標	「⑥安全・安心な給食の提供」における目標値は今まで残食率を載せてきたが、教育委員会の中でもこれは学校の指導の状態によって上下するため、あまり意味がないのではとされていた。今回の見直しで満足度を指標としたが、給食に対する子どもたちの意見がわかるのでありがたい。	—
35	67	政策4施策2 青少年健全育成の推進	児童館の利用対象が三世交流や高校生まで含まれることを忘れてしまっているように感じる部分があるので、児童館の活用に関する文章の追加を検討いただきたい。	児童館の設置目的を踏まえ、児童館の活用について関係部局での情報共有を図ります。
36	69	政策4施策3 生涯学習の推進	第6次総合計画策定以降、電子図書館など新たな取り組みが始まっている。特に電子図書館やインターネット予約など既に行われているデジタル的な取り組みもあるが、デジタル化は新型コロナウイルスを受けた今回改訂の全体を通じた目玉のひとつであるため、その取り組み内容を反映させるべきである。	<b>政策4施策3生涯学習の推進の主な手段と事業例の一部を以下のとおり修正しました。</b> ④図書館サービスの向上 ＜中央図書館＞ ・図書館資料の充実 ・電子書籍の充実
37	71	政策4施策4 スポーツの振興	週1回以上のスポーツの割合が増えていることから、コロナ禍においても国民の健康意識は高まっており、フィットネスその他、運動を始めた人がコロナ禍以前より増えているという実態がある。その中で、今後も健康やスポーツ意識は高まると思われるが、受け皿が逆に難しくなっている。安全で、特に高齢者の方も含めた、健康・スポーツの意識を高めるためには、民間だけに頼っているのは難しい部分があるので、そのような点を補完し強化するところが、行政のスポーツ政策ではないか。現状では、やはり公共施設そのものの整備や強化、この辺が遅れているのではないかと。アフターコロナについて書くのであれば、やはり国民の健康意識の高まりに向けて、スポーツと健康の部分について強化していくべき。具体的には、公共施設の整備や、学校などの開放をもっと具体的に進めるのと同時に使いやすくしていく、デジタル化を進めて、予約もしやすく、色んな学校開放を使えるようにする、といった利用促進のようなことを盛り込んではどうか。	<b>スポーツ振興計画等を踏まえて、政策4施策4スポーツの振興の主な手段と事業例の一部を以下のとおり修正しました。</b> ③スポーツ施設等の整備・充実 ＜スポーツ課＞ ・体育施設の適正な管理運営 ・体育施設の改修（新たな生活様式への対応を含む） ・学校開放施設の活用
38	71	政策4施策4 スポーツの振興	市民プールがなくなった後のことが、特に何も言及されていない。プールそのものは民間でもあるが、屋外で楽しめるレジャー的なものはない。そこは市民ニーズが落ちたままではないか。受け皿というの、市民プールがなくなった後の「検討」であるとか「研究」であるという言葉が入ってきてよいのではないかと。	プールを含めスポーツ施設等の整備については、政策4施策4スポーツの振興の主な手段である「スポーツ施設等の整備・充実」において、市民ニーズを踏まえて、適切な環境づくりに努めます。
39	71	政策4施策4 スポーツの振興	高齢者の方にとっては介護予防の観点からも運動は効果がある。これは厚生労働管轄、これは教育管轄、と国でも分かれています。特に高齢者のスポーツ推進というのは、むしろ健康維持と医療機関が一緒になった形が望ましいので、効果があって安全な高齢者の運動、スポーツ、健康維持の推進みたいなものを含めて、そのような要素を入れてもらえるとよい。	<b>スポーツ振興計画等を踏まえて、政策4施策4スポーツの振興の主な手段と事業例の一部を以下のとおり修正しました。</b> ①スポーツに親しむ機会の創出 ＜スポーツ課＞ ・スポーツ教室、大会の開催 ・各種大会等の誘致 ・ウォーキングの推奨 ・高齢者・障害者がスポーツに親しむ機会の創出
40	71	政策4施策4 スポーツの振興	高齢者や障害者のスポーツ推進を図りたいと考えている。ついては、そのための施設を整備するとともに、広報の仕方についてもあわせて検討してほしい。	No. 39の対応状況のとおり
41	71	政策4施策4 スポーツの振興	事業例の一つとして「豊川リバーウォーキング事業」を入れるのはどうか。豊川市には、御津川、音羽川、西瀬古川、白川、佐奈川が流れており、始点～終点まで豊川市内で完結している恵まれている街。年中、川沿いを楽しくウォーキングできるような川岸環境を整備する（敢えて未舗装路だけの川があってもよい、白川の野町あたり、西瀬古川の平尾地区の未舗装路は素晴らしい。）まずは草刈りの頻度をあげることからでも構わない。	ご意見は関係部局と共有し、今後の取組の参考とさせていただきます。
42	71	政策4施策4 スポーツの振興	「スポーツツーリズムの推進」というスポーツ振興計画に掲載されている表現を追記してはどうか。	<b>スポーツ振興計画等を踏まえて、政策4施策4スポーツの振興の主な手段と事業例の一部を以下のとおり修正しました。</b> ②スポーツを楽しむ環境整備 ＜スポーツ課＞ ・スポーツ関係団体への支援 ・スポーツ推進委員の処遇改善 ・総合型地域スポーツクラブ（*2）の支援 ・激励金、奨励金の交付 ・スポーツツーリズムの推進
43	73	政策4施策5 文化芸術の振興	新型コロナウイルス感染症のような事態が発生し文化活動は壊滅的な状況となっている。加えて、会員の高齢化が進んでいるため、今後は活動が縮小していくのではないかと懸念している。幸いなことに、会員はモチベーションを高くもっており、団体間における横断的な事業の実施に関する提案も出ているため、更に邁進していきたい。	文化団体の高齢化やコロナ禍のなかでも、モチベーションを高く持った意欲的な活動も見られるため、コロナ対策に留意しながら、さらに文化支援等に努めます。
44	75	政策5施策1 農業の振興	高齢化が進んでいる中、人手不足でシルバー人材センターを活用している人もいる。シルバー人材センターでも農業に来る人は少ないため、お互いに取合うような形となり、人手不足が解消されていない状況。また、耕作放棄地の調査を実施しているが、荒れた農地はなかなか借り手がおらず、中間管理機構も動きがとれない。事業を始めるにもお金がかかるので、少しでも担い手の助成を幅広くやっていただきたい。借り手がやりたいと思っても、規模を大きくするためには様々な機械を導入する必要があるため、そのようなことに対する助成もお願いしたい。	農業担い手の育成については、政策5施策1農業の振興の中で、最重要課題の一つとして位置づけ、施策を進めます。
45	75	政策5施策1 農業の振興	農業について、今年はウンカの被害で大変な被害を受けたと新聞にも報道されている。農地の保全と併せて、担い手や管理対策も重要であり、そのようなことに対してしっかり計画の中に盛り込んでいただきたい。	政策5施策1農業の振興の中で、農地の保全や担い手の育成、農地管理についても対策を進めます。
46	75	政策5施策1 農業の振興	放置農地について、高齢者が多くなってきている現状も考慮すると、新規就農者に対する手厚い支援があればよい。収入的な面からすると、農業は他の業種に比べて恵まれている状況ではないものの、ネット販売等の手段を用いることで高収入を得ている人もいる。ただし、農業に興味があったとしても、やり方が分からない、もしくは機会がない等の理由から始められない状況もあるため、そのような方に対して支援できれば放置農地を減少させることができるのではないかと。	農業担い手の育成については、政策5施策1農業の振興の中で、最重要課題の一つとして位置づけ、施策を進めます。
47	78	政策5施策2 工業の振興の主な手段と事業例	主な手段に「企業誘致の推進」とあるが、誘致した後にはその企業がどうやって定着していくかという視点からも考えるとよい。また、「中小企業への支援」において、「経営革新や販路開拓等を実施する中小企業者への支援」と記載されているが、最近では人手不足等もあるので、デジタル化を中心とした支援ができると、人手不足、販路開拓、インターネットを使った販売に繋がると思う。	ご意見をいただいたデジタル化については、中小事業者の生産性向上を図るために重要な視点ですので、経営革新や販路開拓等を実施する中小事業者への支援措置として、今後も重点的に支援をしてまいります。

第2回豊川市総合計画審議会等での意見と対応状況について

参考資料 1

No.	基本計画改訂版（初案）		意見・質疑等の要旨	対応状況
	頁	内容		
48	79	政策5施策3 商業の振興	イオンの建設は地域に大きな影響を及ぼすことが予想される。そのため、商店街や観光地の中に誘客できるような施策などを検討してほしい。	既存事業者への支援については、関係者の意見等を聞きながら、やる気のある事業者への支援を検討していきます。
49	79	政策5施策3 商業の振興	商工会は、個人経営や家族経営等の小規模事業者を支援しているので、税制や助成金等の仕組みづくりを整えていただきたい。	助成金については、小規模事業者の経営革新や販路開拓等を実施する事業対し補助金等で引き続き支援いたします。
50	79	政策5施策3 商業の振興	商業関係として、現在、Go toキャンペーンなど政府も含めて様々な支援策がある。たくさんありすぎてわからなくなっているため、コロナ対策の一つで、フロー化するなどして周知をしていただきたい。	豊川市の施策については、広報とよかわ、豊川市ホームページ等において適宜情報提供してまいります。
51	79	政策5施策3 商業の振興	表について、データがないという意味だと思うが、黒い横線ばかりで何を表しているか理解しづらい。国が公表しているデータないと載せてはいけないという理由があれば別だが、そうでなければ、近似値でよいので、数字を載せた方がよい。	P79の現況にある卸売業、小売業の年間商品販売額と店舗等の事業所数については、国の統計調査以外で数値を把握できるものはありません。当該表はグラフ化する予定ですので、できるだけ理解しやすいグラフとなるよう配慮します。
52	79	政策5施策3 商業の振興	79ページの商業の振興から86ページの雇用の安定と勤労者支援の充実について、観光も含めてデジタル化の促進をしてほしい。政府が主導したキャッシュレスの端末も、まだ全域のお店で設置が進んでいない。元気応援券のような地域金券についてもペーパーレス化をすると印刷コスト分を下げることができる。また、豊川の観光資源を増やすためにも、働く場所を用意するためにも、道の駅を農業分野の方とタイアップができ、工業の製品もそこで紹介できるような、道の駅をつかってほしい。	ご意見をいただいたデジタル化については、中小事業者の生産性向上を図るために重要な視点ですので、経営革新や販路開拓等を実施する中小事業者への支援措置として、今後も重点的に支援をしてまいります。
53	79	政策5施策3 商業の振興	商業の振興において、基本となる調査が実施されていないことがわかる。小売業の年間販売額を始めとした消費購買行動などの基本調査は少なくとも2年おきには実施すべき。調査の実施を事業に入れてください。また、80ページの主な手段と事業例の項目で商工観光課の事業に、大型商業施設と地元商業との共存の推進と言う項目が必要ではないか。	国が実施する商業統計等をはじめ、人口や産業構造などをまとめた地域経済分析リソース等を活用して各施策を検討してまいります。また、大型商業施設と地元商業との共存については、P80の主な手段と事業例には「既存事業者への支援」を新たに位置付けています。
54	80	政策5施策3 商業の振興の目標指標	事業所数の目標値が、令和3年以降は2,500から減らないとなっているが、イオンの関係で200店舗は増えるので、目標値としてはもう少し増えるのではないかと。また、これは事業所数だけであり、現況にあるような売上推移などを予測値も含めて目標を設定しなければ、販売額を載せる意味がないのではないかと。	目標指標については、各種施策を実施する中で、減少幅を改善することとしており、個別事案の影響を踏まえるかについては、他の指標の内容を踏まえ検討していきます。 <b>また、第2期豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略で指標として設定した「卸売業、小売業の年間商品販売額」を新たな目標指標として追加しました。</b>
55	81	政策5施策4 中心市街地の活性化	No. 9で指摘したとおり、中心市街地の活性化については、範囲の見直しをすべき。	No. 9の対応状況のとおり
56	82	政策5施策4 中心市街地の活性化の主な手段と事業例	目標指標として、にぎわいの市民意識評価で達成度を図るのは理解できるものの、具体的な活性化の施策があまりないという印象を受ける。まちの構造における拠点の必要性の議論があったが、中心市街地の活性化施策を打ち出できていないことが、拠点の必要性が議論になる要因の一つではないかと。	現在は、豊川市中心市街地商業等活性化基本計画に基づき活性化施策を進めていますが、新たな中心市街地の活性化施策についても関係機関等と連携して検討を進めます。
57	83	政策5施策5 観光の振興	観光の振興施策でも調査項目が少なく、観光の実態がわからないのが実情。年間観光入込客数だけでなく、事業所数、販売額、従業員数などの調査も定期的に行い、しっかりした観光活性化政策の策定を行うべきと思う。	ご意見は関係部局と共有し、今後の取組の参考とさせていただきます。
58	85	政策5施策6 雇用の安定と勤労者支援の充実	まちづくり目標として、「テレワークやモバイルワークに優しい街」を入れではどうか。テレワークでも出来る仕事はアフターコロナでも継続する。通勤圏内に住むということが常識ではなくなってきている。豊川市が居住地の受け皿なり、人口が増加につながればと思う。具体的な施策は、ストレスのない公共ネット環境の推進、公共Wifiの全世帯網羅。	ご意見は関係部局と共有し、今後の取組の参考とさせていただきます。
59	87	政策6施策1 コミュニティ活動・市民活動の推進	町内会の活動状況や加入率は地域によって差があり、運営が円滑にできている地域もある。今年は、コロナの影響で様々なコミュニティ活動が阻害されており、向こう何年かそういう状況が続くという心配をしている。先程のコロナ対策について、これは非常に難しいと思うが、市でも注力していただきたい。	政策6施策1コミュニティ活動・市民活動の推進において、町内会活動のコロナ対策への支援として、ICT化の推進および支援などに取り組みます。
60	87	政策6施策1 コミュニティ活動・市民活動の推進	町内会の加入率を上昇させる方法を検討中であれば教えてほしい。先進事例として、岡山市では町内会加入率が88.8%程度に上昇しており、その理由のひとつとして、電子町内会を導入したことが挙げられる。人との接触を避ける傾向にある昨今において、新たな町内会のあり方についても検討をお願いする。	現在、関係部局による町内会加入率低下対策町内プロジェクト設置し、対策を検討しています。また、町内会活動のコロナ対策への支援として、ICT化の推進および支援などに取り組みます。
61	87	政策6施策1 コミュニティ活動・市民活動の推進	町内会に加入する意味が浸透していないように感じる。現状は、若い方の加入率が低く、昔から地域に在住している方が頑張っている印象。地域として必要なことを平等に担うべきと思うので、一度、町内会の大義を示した方がよいと思う。	ご意見は関係部局と共有し、町内会の加入促進に向けた今後の取組の参考とさせていただきます。
62	87	政策6施策1 コミュニティ活動・市民活動の推進	事業例の一つとして「ラジオ体操奨励事業」というのはどうか。子供会や老人会が中心になって進めることで、子供の親の世代も老人と接する機会を持ち、町内のコミュニティが育っていくきっかけになる。町内会に対し、老人会と子供会との合同のラジオ体操の日数実績に対し補助を与えることで（クリーン事業と同じ）、コミュニケーションを育む。老人同士が毎朝集まることで独居老人の安否確認にもつながり、また、若者世代といっしょになれば独居老人へのケアも高まるのではないかと。 ※コロナ禍では、ソーシャルディスタンスとマスクは必須が前提。	ご意見は関係部局と共有し、今後の取組の参考とさせていただきます。
63	—	その他	町内会のデジタル化について意見が出ていたが、SDGsにおいても環境をよくする旨の目標も設定されているため、会議で使用される資料をペーパーレスにするなどの取組が今後必要になってくると思う。	ご指摘のとおり、行政デジタル化の推進に取組みます。
64	—	その他	地方創生交付金について、豊川市はすでに複数のよい計画を実施している。4～5年間の継続性のあるものなので、計画に反映してほしい。	地方創生推進交付金に関連する事業については、主な手段と事業例において、都市圏プロモーションの推進や食育の推進、官民連携の推進など個別の事業例として反映しています。

第2回豊川市総合計画審議会等での意見と対応状況について

参考資料 1

No.	基本計画改訂版（初案）		意見・質疑等の要旨	対応状況
	頁	内容		
65	－	その他	ふるさと納税について、あまり興味深い返礼品がないと感じる。例えば、ドローン協議会でドローンの操縦の講習会を有料で開いたりするのであれば、そのようなものを返礼品にしたり、伊奈の近くには寝具メーカーがあったと記憶している。よい返礼品になりそうなものがたくさんあるのに残念。	シーリーベッドのマットレス（伊奈町：スリープセレクト社）や、アウトドアブランドSOTO（御津町：新富士バーナー社）をふるさと納税のラインナップに追加しました。
66	－	その他	行政のデジタルトランスフォーメーションに関する記述がどこかに書かれているか分からなかったため、それを是非ともやってほしい。そこで取り残されるのは高齢者だが、行政のDXにより高齢者にとって優しい窓口ができ、一方で60歳以下の市民は自宅で住民票が取れるといった方向になっていけばよい。	新たな課題への対応として、新たな日常の構築への原動力となるDX（デジタルトランスフォーメーション）に関する記載を追加しました。
67	－	その他	合計特殊出生率などを上げていくことも重要だが、進学を機に県外などに出て行った子どもたちが、地元に戻って未来を築いていきたいと思うような豊川市であってくれたらよい。そのようなまちについては、私たちが考える視点と子どもたちの視点は全然違うと思うので、こういった専門家の先生方の委員会とはまた別に、若い世代の意見を聞いたりする機会があるとよいのではないかと。	ご意見は関係部局と共有し、今後の取組の参考とさせていただきます。
68	－	その他	各委員が出した意見に対して、他の委員の意見がわかるとよいのではないかと。それぞれの意見を振り返って更に考えたことがあれば、専門分野に限らずに行政に意見ができるかたちにしてほしい。	ご意見を踏まえて、意見書提出方式により、専門分野に限らず意見などがあれば提出いただくこととしました。